

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立多聞小学校
校長 小泉 一弘

令和5年度自己評価報告と令和6年度の基本方針について

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会の報告と提言を受け、自己評価と次年度の学校運営基本方針を以下にお示しいたします。

1 学校関係者評価報告書を受けた学校の回答

(1) 児童・保護者・地域アンケートについて

新型コロナウイルス感染症が年度途中で2類から5類に変更になり、それまで制限されていた様々な教育活動が段階的に緩和された年度である。そのような状況での教育活動について学校関係者評価委員からの提言を踏まえ、自己評価を行った。

ポイント1 学習指導について（キャリア・未来デザイン教育の推進）

世田谷区の施策である「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて、「なりたい自分」を意識させる校長の講話や教員からの指導を行った。学習指導については、校内研究を軸に、「せたがや探究的な学び」を継続実施した。今年度は児童が問いを自分事として捉える学習活動を重点課題として取り組んだ。児童アンケートの結果は、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の評価で、昨年度から若干減少するも、87%と高い評価を維持できている。今年度の授業研究を踏まえ、児童自身が学びを実感できるよう工夫改善を行い、「問い」を生み出すための丁寧な「振り返り」を充実させていく。今後も全教科・領域において、多様化する児童の実態に応じた日常的な支援を行い、全ての児童にとって分かりやすく、充実感が得られる指導を展開していきたい。

ポイント2 学校からの情報提供

数年来、本校の学校関係者評価アンケートの課題であった情報発信については、大きく評価が上がった。学校とPTAとの関係が良好で、学校の教育活動や行事等を発信するためのPTAからのサポートの効果は非常に大きかった。特に行事のオンライン中継や「たもんラジオ」（校長とPTA会長等によるオンライン情報発信コーナー）など、ITを駆使した広報活動に大きく支えられた。他にも、年度内に学校協議会を2回実施し、全教員が保護者や地域の方と児童の健全育成について情報共有をおこなう機会を設けたことや、学校行事の参観の機会が増え、保護者や地域の方々から児童の学校での様子を目の当たりにすることで、本校の教育活動の成果と課題を感じていただけたものと捉える。次年度は、教職員が積極的にPTAや地域行事に参加し、すべての大人で子どもを育てる意識を強化していきたい。

ポイント3 学び舎の取組

今年度の評価で、最も肯定的回答が増加した項目は、学び舎の中学校との交流についてであった。感染症対策が段階的に緩和され、これまで制限されていた他校との交流活動が再開されたタイミングであったため、ここ数年で体験できなかった活動の充実を図ることができた。児童が自身の体験を基に評価をすることができたことによるものと考える。

(2) 重点目標について

ポイント1 学習指導（キャリア・未来デザイン教育の実現）

- 校内研究「自分を高めようとする丘の子ども」の充実
- 校内研究を軸とした「せたがや探究的な学び」の確立と、課題解決的な学習の展開
- 児童全員が自分らしく学ぶためのICTの活用を含めた学習方法の選択
- すべての児童を学びの土台に乗せる学級内支援の日常化

ポイント2 豊かな人間性の育成

- 自分が好き、認め合い、助け合い、分かち合い→自己肯定感の育成
- 学校生活を楽しいと感じる充実感の育成
- 児童が安心して活動できるための児童理解と学級・学年団経営

ポイント3 健やかな身体の育成

- 日常的な健康教育の推進
- 丘の子ベーシックをはじめとする体育教育の充実
- 安全に配慮した体育科の指導技術の向上

2 令和5年度から令和6年度にかけての学校状況の変化

- 児童数の増加に伴う学級増
- 一人一台タブレット配備とデジタルリテラシーの醸成

3 令和6年度教育課程編成における学校の基本方針

(1) 教育目標

- ① 3つの教育目標及び目標とする児童の姿の変更はなし。
 - ・考える子ども……すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
 - ・助け合う子ども……他者の思いに共感し、思いやり、助け合う、人間性豊かな子ども
 - ・たくましい子ども……心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども
- ② 目指す学校像「自己肯定感を育む学校」から、「誰にでも居場所がある学校」とした。
「児童一人一人の相互承認」を推進しながら「協働による実践」を繰り返し、それによって、集団活動での「安心感・達成感の蓄積」を進め「主体的実践意欲の維持・充実」を図りながら、相互承認を充実させていく。前述の4点を循環させることで、「自己肯定感及び自己効力感の醸成」を目指し、教育目標の具現化を図る。

(2) 重点目標

- ① 3つの重点目標を一部修正及び育てたい児童の姿勢・意欲・態度等を修正した。
 - 探究的な学びの確立：「問いの見出し」「見通し」「協働・共有」「振り返り」のせたがや探究的な学びのプロセスを循環させ、誰一人置き去りにしない探究的な学びを実践する。課題となっている「問いの見出し」の改善を図るために、「振り返り」を重視する。
 - 豊かな人間性の育成：規律を重視するとともに個に応じた適切な指導・支援を行うことにより、児童の自己肯定感を醸成し、主体的な実践意欲を育成する。
 - 健やかな心身の育成：自己の心身の状況について適切に把握する指導を行うことにより、心身の健康増進に向けた取組を継続しようとする態度を育成する。

(3) 教育目標及び重点目標を達成するための基本方針

令和6年度世田谷区最重点教育課題である『キャリア・未来デザイン教育』の推進に向けて、以下の方法により実現を図る。

- ① 課題解決的な学習の展開「せたがや探究的な学び」の実践による授業改善、ICT活用
- ② キャリア教育の充実、キャリアパスポートの活用、幼保小中間の連携、地域との連携
- ③ 「挨拶」「返事」「感謝と謝罪」を中心としたコミュニケーション能力の向上
- ④ 人権尊重の精神に基づく人権教育の推進、自己肯定感、実践意欲や主体性の伸長
- ⑤ 規範意識の醸成と集団貢献意欲の育成
- ⑥ 個性や能力、発達特性等の多様性を理解し個々の教育的ニーズに応じた教育の充実
- ⑦ 学校協議会、学校運営委員会、学校支援地域本部の機能の充実